

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

聴くことの大切さと難しさ

～分かれ、そして、会者定離の春三月に～

立科町教育相談員 岩上起美男

平成21年6月、「広報たてしな」の「シリーズ 一緒に考えましょう!」の連載が始まりました。立科町教育相談員の任を同年4月に拝命し、その2ヶ月後、本シリーズがスタートしたのです。

当初、連載という意識はまったくなく、月に一度、中学教師としての自分のささやかな体験と、ささやかとは到底申し上げられない苦い反省や後悔に基づいた、子どもの育ちに関する提言をさせていただく場と受け止めていました。折々に、教育相談の視座から、今までに出会った多くの敬愛すべき児童・生徒諸君、親御さん、先生方、先輩諸兄、そして、先生から学んだ教えと、老生自身の数多ある失敗事例の反省や教訓をお伝えし、多量なりとも、教育及び子育て、青少年の健全育成の参考にしていただければ……、という一心でした。

しかしながら、掲載当初から常に、老いのお節介ではないか、と案じていました。「伝えるべきことは伝えよう」という思いと、「何様でもあるまいし、求められてもないことをしたり顔で提言して悦に入っているのではないか。ぞせえるな。」という気持ちがあつかり合い、押しつ戻りつしていたのです。

したがって、本シリーズが10年も続くとは夢想だにせず、今はただただ10年間という過ぎ去った時間の速さと重さを

感じ、ご愛読いただきました皆様、並びに、このような有難い研修・研鑽の場を与えていただきました方々に平身低頭して深謝致しております。

本シリーズの第1回は、迷うことなく「聴くことの大切さと難しさ」というテーマを取り上げました。

「配球の原点」と題して、「聴くことは、教育及び子育ての原点であり、悩める子どもたちは、温かい態度で、心のエネルギーを惜しげもなく費やして親身に、真剣に聴いてくれる身近な大人の存在を渴望している。しかし、聴くことは意外に実践されていない実態があるので、親も教師も、自分の持ち味を生かした共感的な聴き方を工夫し、身に付けたい。」という提言を申し上げたのです。

迷うことなく、と申ししたのは、中学校に勤務していた折、中学生や親御さん、先生方の話を決しておろそかには聴くまい、と心がけていながらも、学校教育における「集団」と「時間」、「場所」という不可避的な条件下で、きちんと聴くことのできない自分に苛立ちや焦りを覚えていたからです。

さらに、教師の職務上、どうしても助言や評価、説諭などの「指導」に傾きがちで、共感的に聴き、すべてをありのままに受容することができず、「支援」に

は至らないことが多かったからです。

さらにまた、「自分にも同じ経験がある。」という独り善がりの「同情的な共感」によって、(同じような経験はあっても、何一つ同じ経験はないのに、)自分自身の同じような経験を得々と語り、ふと気が付きますと、深刻な悩みを抱え、その悩みを話すことを通して混沌とした心の中を整理し、解決の糸口を見出そうとしている生徒や親御さんが黙々と座しており、とても教育相談が成立したとは言えないケースもあつたからです。

すなわち、本シリーズのスタートに、「聴くこと」を迷うことなく取り上げたのは、聴くという行為は、話し手の言葉にひたすら耳を傾け、その内容を理解し、共感し、受容すると同時に、話し手の生き方や考え方、そして、話し手の存在そのものに敬意を抱くことであり、子どもの健やかな成長のために不可欠な大人の心得であるにもかかわらず、実は非常に難しいことであるからです。

十年一昔……、と申しますが、平成21年の流行語大賞が「政権交代」で、総理大臣が麻生太郎から鳩山由紀夫に交代した政界、そして、今や全国統一防火標語「忘れてない? サイフにスマホに火の確認」にまで登場し、人々の生活と子どもの生育環境を大きく変えたスマホが、